

明るい未来へつなごう

～東京大空襲で知った平和の大切さ～



未来を担う子どもたちが平和学習に取り組む。コープぐんまの「ピースクラブ」は、6月23日、東京都江東区の東京大空襲・戦災資料センターを見学した。小学4年生

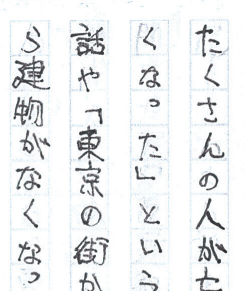
から中学3年生までの7人が戦争を体験した西尾静子さん(85)にインタビューしたり、戦争の資料を見学したりした。都内の戦争に関する場所を巡る「ピースウォーク」も行い、平和の大切さを実感した。

「友達や親戚などでは西尾さんから聞いたことだ。そこ



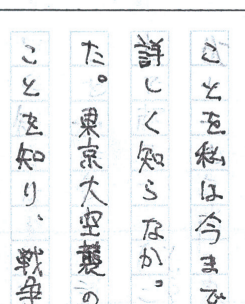
私が「東京大空襲・戦災資料センター」を見学して感じたことは「戦争は恐ろしい」ということだ。そこ

「友達や親戚などでは西尾さんから聞いたことだ。そこ



戦争のない世界へ

このようなことが79年前の東京で起きていたという話を私は今までも詳しく知らなかった。東京大空襲のことを知り、戦争の恐ろしさを今も



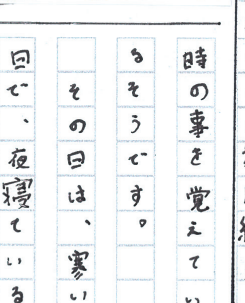
戦争の恐ろしさ

私は今回、東京大空襲資料センターで、西尾さんに話を聞いて、空襲の恐ろしさを学びました。西尾さん



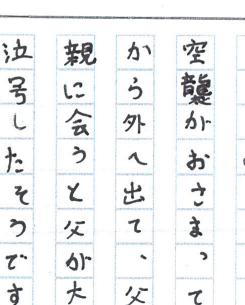
戦争の恐ろしさ

「近くの小学校には空襲壕がありました。他の防



戦争の恐ろしさ

その日も西尾さんが母親といっしょにげこんだ地下室で、とびらの外



戦争の恐ろしさ

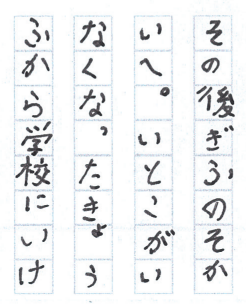
西尾さんは6才の10万人の命をうばわれた空襲を経験した。3月9日のお昼にけいほうがなると、たそ



大切な人がいなくなる恐怖

「ぼうくうごうから出たら月の世界のようだった」と西尾さん。東京

命を守る仕事に



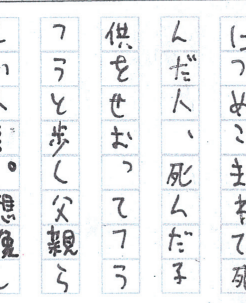
誕生日に目にした物

ぼくは、西尾さんの空襲が終った後に見た話が心に残った。



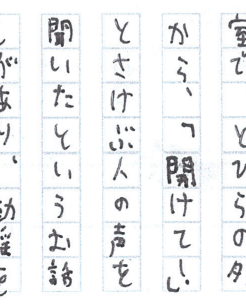
誕生日に目にした物

たのが西尾さんの誕生日だというこ



誕生日に目にした物

その日も西尾さんが母親といっしょにげこんだ地下室で、とびらの外



誕生日に目にした物

東京大空襲 死者10万人

空中市立第一中学校3年 掛川 遥斗



1945年3月10日午前0時からアメリカ軍の爆撃機が東京の下町を中心に焼夷弾を投下した。この空襲による死者は10万人を越えたといわ

れている。

それは、アメリ

カ軍が日本向けの

油脂焼夷弾を投下

し木造家屋の密集

地である東京に大

量の焼夷弾を投下

したことで大火災

が起きたからだ

東京大空襲を防ぎ

たい。

当時6才であ

る西尾さんの話

によると「死体が多

すぎて大きな穴に

死体をうめた。身

元が分かった人は

遺体の一部を持ち

帰ることができな

た。

僕は、戦争の悲

惨さと恐ろしさを

学びたいと起し

てはいけないと強

く感じた。

知ろう、伝えよう「東京大空襲」

みなみ町立みなみ中学校3年 高橋美空



今から79年前に起きた「東京大空襲」を知っていますか。私たちピースクリップメンバーは、実際に経験した西尾さんの話を聞いてきました。

当時、年長だっ

た西尾さんは、深

川区へ現・江東区

に住んでいました。

しかし、1945

年3月10日、空襲

により西尾さんが

住んでいた地域は

焼けてしまいました

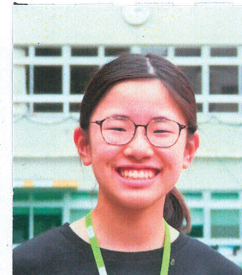
た。それにより、

たったの2時間半

で、約10万人の命

焼夷弾の恐怖

太田市立休泊中学校一年 三田 果凛



私は、焼夷弾が東京大空襲で多くの命を奪った大きな原因だといふことを初めて知った。焼夷弾の恐ろしさがよく分かった。

私は、西尾さん

の「交番に逃げこ

んだ人々がまるで

マッチ箱に入った

棒のように七くな

っていた」という

言葉が心に残って

いる。そんな光景

を考えただけで、

ゾッとした。

その後資料を見

て、国民には火を

消す義務があり、

そのせいで七くな

ってしまっ た人が

いることを知った。

逃げれば助かった

かもしれないのに

と胸が苦しくな

た。

西尾さんは「今

の世界はとても幸

せ」と語っていて

これからは日常に

ある小さな幸せも

大切にしていこう

みんなで取材したよ

